

登録コード	E7134300	開講年度	2026				
授業科目	異文化間教育基礎演習					担当教員	徳井 厚子
英文授業名	Seminar for Intercultural Education 2					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限	対象学生	2-4年生
講義室	教育N204講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				異文化間教育の専門家に求められるより深い知識の獲得を行う		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				異文化間教育の教育活動を支え、実現する上で必要な専門的スキルを獲得する		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	異文化間教育の方法論について理論、実践の側面から学ぶ						
(5)授業計画	第1回 異文化間教育の方法論概説 第2回 国際理解教育概説 第3回 国際理解教育の実践（教科・領域型） 第4回 国際理解教育の実践（付加・深化型） 第5回 国際理解教育の実践（横断型・合科型） 第6回 国際理解教育の実践（総合学習型） 第7回 外国籍児童生徒の教育概要 第8回 JSLカリキュラムの実践（国語） 第9回 JSLカリキュラムの実践（社会） 第10回 JSLカリキュラムの実践（理科） 第11回 JSLカリキュラムの実践（算数） 第12回 異文化間コミュニケーションと教育概要 第13回 異文化間コミュニケーション（ケーススタディ） 第14回 異文化間コミュニケーション（ロールプレイ） 第15回 まとめとふりかえり 授業アンケート実施						
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・授業のねらい の到達度を測る発表、レポート、小テスト60% ・授業のねらい の到達度を測る活動の評価 30% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	「実践の目的と意義を理解しているか」「実践の方法について理解しているか」「ふりかえりを適切に行うことができるか」「実際に企画する力があるか」「内省が十分できているか」上記のうち4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目を満たしていれば「やや上にある」。2項目を満たしていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	授業前に教科書の授業で扱う箇所に目を通しておくこと。毎回、授業後に振り返りシートあるいは課題を渡します。授業で学んだことについてまとめ、次の授業の最初に提出すること。振り返りシートあるいは課題は以下の観点に留意してまとめること。1) 授業の内容をふまえること 2) 授業から自身がどのように考えたか明確にかくこと 3) 現場での実践の課題と関連させること						
(9)履修上の注意	レポートは期限を守ってください。引用した文献がある場合は（HPも含めて）必ずその引用元を明記すること。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メールアドレス tokuias@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	なし						
【参考文献】	佐藤郡衛他『国際理解教育の授業づくり』教育出版ほか適宜指示する						